

# 調布東山病院

小川 聡子理事長

内科 | 消化器内科 | 血液内科 | 循環器内科 | 呼吸器内科 | 神経内科 |

腎臓内科 | 外科 | 消化器外科 | 整形外科 | リハビリテーション科 |

リウマチ科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 麻酔科 | 放射線科 |

基本情報

Doctors File

検診・治療レポ

トピックス

お知らせ

クチコミ



## Doctors File

Doctors・File

vol.11915

# 小川聡子理事長

医療法人社団東山会 調布東山病院(調布市/調布)

1982年に開業して以来一貫して地域住民の健康を守り続けてきた「医療法人社団東山会調布東山病院」。医療の質は大学病院に引けをとらないよう、かつ全人的視点での医療を大切にという考えの下、1990年代に早くも在宅医療に力を入れ、その後、関連クリニックにおける外来血液透析や、予防医療総合施設の設置と地域のニーズに応じてきた。現在、小川聡子理事長を筆頭に取り組むのが「生活支援型急性期病院」としての地域貢献だ。85歳以上の人口が爆発的に増えると予想される10年後の調布市を見据えた地域作りに余念がない。同病院では、地域連携室を中心とした地域の医療機関との連携・機能分化の推進や、行政や介護従事者などと情報を共有するなど積極的につながりを持ち、救急医療から介護と一体となった包括的なサービスまでを実践し、誰もがその人らしさを保ちながら生活できる環境づくりをめざしている。また、医師やスタッフの成長が患者への良い医療につながると、ひと成長型人事制度を整備し人材育成や管理者教育にも熱心だ。35年以上地域に愛されともに歩んできた同病院について、小川理事長にたっぷりとお話を聞いた。

(取材日2017年2月16日)

## 生活支援型急性期病院として地域に貢献

—はじめに病院の成り立ちと概要についてお話しください。

1982年に地域医療を実践し、なおかつ大学病院に引けをとらない医療の質を担保する病院としてスタート、2011年に新病院に移転し現在に至ります。開院当初から一貫しているのは、患者さんや地域に必要とされたときにすぐに手を差し伸べ、「人情味」のあるサービスを提供するということ。病気だけではなく患者さんの人生やその人を丸ごと診る医療や看護を実践する姿勢を大切にしています。開設から5年目で在宅医療を開始、その後、血液透析やドック健診部門など、常に患者さん・地域にとって必要と思われることを積極的に取り入れてきました。今、当院が求められているのは、地域に近い急性期病院（生活支援型急性期病院）として、救急指定病院、7：1急性期病院を維持することで。ドック健診部門と、今後も増える消化器疾患に対応するために、内視鏡部門は現在年



間約7000件の検査治療を行っています。

—今病院で力を入れていることは何ですか？

生活支援型急性期病院として、救急医療・質の高い総合診療と、介護と一体となった包括的なサービスまでの両方を実践することです。地域の皆さんが安心し

て在宅医療に取り組める環境を支援し、「生活の場の持っている力」を信じて行う退院支援を通して、地域の皆さんと同じ価値観でつながりを持つことをめざします。早く退院することが不安な方に対して、理想的な退院支援を行い、受け止める側も「帰っておいで」と自信を持って言えるよう、急性期から在宅へのイノベーションを起こしたい。これには、急性期リハビリテーションの伴走が欠かせ



ません。疾患として多い消化器治療と、ニーズが高いドック健診部門については、質の高い予防医療・患者教育、早期発見、質の高い治療への移行・実施、そして緩和ケアまで幅広く関わります。また、われわれは医師が成長する病院をめざし、まずは具体的に近隣の大病院の内科専攻医の研修連携病院として機能する予定です。

# 調布東山病院

小川 聡子理事長

内科 | 消化器内科 | 血液内科 | 循環器内科 | 呼吸器内科 | 神経内科 |

腎臓内科 | 外科 | 消化器外科 | 整形外科 | リハビリテーション科 |

リウマチ科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 麻酔科 | 放射線科 |

基本情報

ドクターズファイル

検診・治療レポ

トピックス

お知らせ

クチコミ



**Doctors File**  
ドクターズ・ファイル  
vol.11915

## 小川聡子理事長

医療法人社団東山会 調布東山病院(調布市/調布)

### —地域のクリニックとの連携はどのように取っていますか？



患者さんには「二つ主治医を持ってください」とお願いし、クリニックには連携室長が中心となって、私と院長も加わりごあいさつに伺い、紹介・逆紹介がスムーズに行くように心がけています。互いの医師が患者さんに一言「聞いているよ」と声をかけるだけで患者さんは安心されます。一次はクリニックでお願いし、入院や検査が必要な二次を当院が担当します。検査は、当院の外来を通さず

直接ご予約いただけます。紹介のあった入院患者さんを質の保った医療と看護でお返しすることで信頼できる病院だと言ってもらえます。また災害訓練において、今年市役所と医師会と病院が連携して行いとても評価されました。来年は調布市内の3つの病院と合わせて同時に行う予定です。地域には行動すると応えてくれる人が大勢います。それは、日頃当院で一生懸命に医療や看護をしているドクターや看護師、スタッフの医療の質を信頼していただけているからです。

# 調布東山病院

小川 聡子理事長

内科 | 消化器内科 | 血液内科 | 循環器内科 | 呼吸器内科 | 神経内科 |

腎臓内科 | 外科 | 消化器外科 | 整形外科 | リハビリテーション科 |

リウマチ科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 麻酔科 | 放射線科 |

基本情報

Doctors File

検診・治療レポ

トピックス

お知らせ

クチコミ



## Doctors File

Doctors File

vol.11915

# 小川聡子理事長

医療法人社団東山会 調布東山病院(調布市/調布)

### —医師として大切にしていることはどんなことですか？



患者さんの訴えの裏を嗅ぎとる努力、受診された真の目的を自分が汲み取れているか直接患者さんに確認すること。高齢の患者さんについては、その変化に早めに気づき、看護師やクラークたちの力を借りて地域やご家族と連絡を取り、早めに対応できる準備をすることに努めています。支援してくださる方への配慮も忘れないことです。一方で、救急をやっていると救急車の安易な使用や、コンビニ

感覚で病院にかかったりすぐに薬を出してほしいという患者さんには少し厳しくお話をすることもあり、患者教育、家族教育の視点の方法についてはまだまだ勉強しないと感じています。旧病院時代から当院ではずっと「病氣」ではなく「人」を診ています。ただし、最も変わらずに大事なベースは医療の質です。忙しい急性期病院医療ですが、そのための研鑽は怠らないことが大前提という努力が必要です。

### —最後に今後の展望をお聞かせください。

10年、20年先の地域を見据えて、それに対応できるような地域作りのお手伝いを医療・看護を通してやっていくことを法人全体の目標に掲げています。各分野においては、「急性期から在宅へ」を本当の意味で実現できる実力をつけること、消化器部門として、早期発見、予防から緩和ケアまで責任を持って質を保った診療部門にすること。予防医療については早期発見を徹底し、生活習慣では積極的に検査後も責任を持って対応する。そして透析治療は透析だけではなく、患者を人として診て地域ともつながっていく。急性期病院が地域に積極的に出て行き、地域で自分らしく生ききたいと思う人やその家族をサポートします。そうやって構築された地域包括ヘルスケアサービスのもとでは、関係者が



ACP（アドバンスケアプランニング）の  
情報も共有できるようになります。地域  
で生ききる、それを支える人々が笑顔で  
いられる地域づくりに貢献します。

